石川県加賀市の〝参勤交代〟高校生との交流支援

高田東ＲＣ青少年奉仕活動

令和の参勤交代に挑戦する石川県の高校生をルート途中の高田で迎え交流したい―。高田東ロータリークラブ提唱のインターアクトクラブの一つ関根学園高校ＩＡＣが、高校生の志に感動の輪を重ねたこの夏の一大プロジェクトに賛同の志を重ねたのは今年５月２１日でした。「加州大聖寺藩参勤交代うぉーく 2019」というプロジェクトを知った高田東ＲＣ所属のロータリアンが例会などの機会を通して、志への共鳴を呼びかけ、ＩＡＣの高校生にも知らないで見過ごしてしまった時の損失の大きさにも思いをやり、情報提供と支援行動提起をすることになりました。語る側の熱意も伝わったと思いますが、説明会に出席した生徒たちは目を輝かせ、時代を超えた参勤交代の今様光景も想像しながら話をきいていました。その後の流れは、校内の運動部もまとまって上越ルートを一緒に歩きたいと申し出もある心意気でしたが、主催の実行委員会による高校生以下の支援歩行は安全管理上できないという判断から、出迎え交流を行うことになりました。

加州大聖寺藩参勤交代うぉーく 2019 は、石川県立加賀聖城高校（定時制）の生徒が、ふるさと学習で故郷の参勤交代の歴史を知り、「ぜひ再現してみたい」という声を上げたことから始まりました。無謀ともいえる夢は先生の一言で消えてしまいがちですが、そうはなりませんでした。熱血教諭が立ち上がり、学校が理解し、地域ぐるみの実行委員会（西田浩之実行委員長）が設立。全国一の大藩・加賀藩の支藩だった大聖寺藩の史実に忠実に７月２９日に東京・日本橋を出発し、８月１１日に母校に戻る延長 540 ㌔を１３泊１４日でたすきリレーする参勤交代計画がスタートしました。

江戸時代の参勤交代は、江戸の防御と全国支配のため、全国の大名に隔年で義務付けられました。高田藩の流れでも３００人規模の参勤記録があります。妙高市の関川関所と糸魚川市の市振関所の間は、二本木宿、高田宿、名立宿、糸魚川市中宿があり、糸魚川市の加賀の井酒造は加賀藩本陣のあった由緒深いところです。そして高田城下の上越市本町７には、「右」奥州街道「左」加賀街道を示す追分道標があり、静かに参勤交代の歴史を語るこの道標に接する駐車場が高田東ロータリークラブ会員の会社管理で、同町内会の町内会長を現在の大谷光夫ガバナーが務めていた偶然があります。大谷ガバナーは青少年奉仕活動と「楽しい活動」を提唱していて、地元上越市の支援歩行実行委員会の代表にも就きました。

上越ルートの参勤交代歩行は８月４日から６日まで二本木～糸魚川間で実現し、４日午後４時過ぎから道標脇駐車場で総勢３００人を超える参集者を数えた歓迎交流会が行われました。歓迎交流会の会場では地元町内会の企画で縁日風のテント村が設営され、関根学園ＩＡＣの９人も親子向けコーナーなどでボランティア協力。炎天下二本木から 16・5 ㌔歩いてきたこの日の歩行高校生３人と一緒に記念撮影し笑顔のおもてなしをしました。

ちなみに上越ルートの〝参勤交代〟では、高田東と高田ＲＣの会長が一緒に歩き、１０人以上の高田東ＲＣ会員が歓迎交流会に合流。加賀の井酒造では、糸魚川・糸魚川中央両ＲＣの多くの会員が出迎えと送り出しに立ち合いました。高校生同士の今後の交流の発展も期待しています。

３人と記念撮影する関根学園高校ＩＡＣメンバー

二本木を出発し先頭を歩く加賀聖城高校の生徒会長ら